

第109回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

平成26年7月

日 時: 2014年7月25日(金) 18:00-19:30 場 所: 神奈川大学 24号館 310号室
◆主 催: 防災塾・だるま 司 会: 佐々木さん 記 録: 中島さん
◆談義の会参加者: 会員 20名 一般 4名 計 24名 (敬称略)
(会員) 池田、伊東、荏本、小原、高松、中島、田中(喜)、山田(美)、片山、田中(晃)、大西、
玉井、樋口、佐々木、鈴木、石井(邦)、松井、磯野、稻垣、佐藤先生(顧問)
(一般) 増田佳恵(葉山市) +3名



★今日の話のポイント

- なぜ、火山対策が必要か
- 横浜市の火山対策は
- 火山対策の課題と今後の対応

テーマ: 横浜市の火山対策

講 師: 桜井 清二 氏(横浜市総務局危機管理室 危機対処計画課長)



«なぜ、火山対策が必要か»

- 「東北地方太平洋沖地震」発生後、日本列島は火山活動が著しく活発
- 今世紀中に大規模な火山災害が発生してもおかしくない(1707年富士山宝永噴火に似ている)
- 東日本大震災からの教訓=大規模災害の再来を想定し、日頃から備えることが大切

●横浜市が想定する火山は: 富士山(1707年宝永噴火)

●火山灰処分量の目安: 約10億5千万トン(東日本大震災のガレキ総量1,595万トンの約65倍)

●「火山灰とは?」: 粒子が細かい(2mm以下)、マグマが噴火時に破碎・急冷したガラス片・鉱物片、
亜硫酸ガスなど火山ガス成分が付着、水に濡れると酸性を呈し導電性を生じる、
硫酸イオンは金属腐食の要因、濡れた火山灰は乾燥すると固結する

★数cmの火山灰で交通機関は全滅し、大都市機能はマヒする(経済的損失は甚大)

«降灰による被害予想»

●健康障害	目・鼻・のど・気管支の異常など
●建物被害	一部家屋等の倒壊
●交通被害(道路)	5mmで通行不能
●交通被害(鉄道)	導線不良による輸送の混乱
●交通被害(航空)	運行不能
●ライフライン(水道)	給水量の減少、不能
●同上(電気)	機能低下、停電
●同上(通信・放送)	電波障害、電子機器障害など
●農林水産業	商品価値の喪失、枯死、収穫減
●建築・製造・商業	物量等の不足による操業不能



«市民の協力»

- 噴火情報や降灰予報等正確な情報を入手
- 外出は控える(外出時は帽子、マスク、ゴーグル着用)
- ライフラインが寸断された場合に備え備蓄
- 不要な自家用車の使用を避ける
- 大量の火山灰で木造家屋は倒壊のおそれ、避難をする
- 自宅の火山灰は、二重のごみ袋で、指定場所に廃棄

次回(第110回)のご案内

- 日時: 8月22日(金)18時~19時30分
- 会場: 神奈川大学 1号館301号室
- 話題: 首都圏を襲った台風と火災旋風
- 講師: 相原延光氏(関東学院高等学校講師)